

特別活動

1 研究主題

望ましい集団活動を通して、
よりよい生活や人間関係を築こうとする生徒の育成

2 主題設定の理由

近年の社会情勢や家族の在り方の大きな変化に伴い、中学生を取り巻く環境も大きく変化している。本校においても、集団への所属感や自己有用感が乏しく、相手への配慮を欠いた言動をしてしまう生徒や、円滑な人間関係を構築できない生徒も少なくない。そのため、集団での活動を通して、よりよい生活や人間関係を構築するための力を育むことを学ぶ特別活動が果たす役割は大きい。そして、生徒が諸活動での体験を通して肯定的な自己理解を深めることは、集団や個人の向上を目指そうとする意欲の源として大きな意義がある。個人的な資質と社会的な資質の成長と調和を図り、話し合いによる問題解決を通して、豊かな人間関係を築いていこうとする態度や能力を育むことを目指して、本主題を設定した。

3 重点目標

(1) 学級活動

- ① 学級集団の一員として、自他の個性を尊重し合えるような人間関係を構築する。
- ② 年間指導計画をもとにキャリア教育との関連を図りながら、様々な議題について話し合い、合意形成に基づく協働して実践していく活動の充実を図る。
- ③ 現在及び将来における生活上の課題について話し合い、意志決定したことを生徒自ら実践していく能力を養う。

(2) 生徒会活動（生徒活動）

- ① 生徒の自発的・自治的な活動を通して、集団への所属感を高め、向上を目指そうとする意識を育てる。
- ② 自己肯定感を高められるように、事前指導と事後指導を充実させ、特に活動後の評価を大切にする。
- ③ 健全な考えや規範意識をもち、よりよい生活を築こうとする生徒集団を育成する。
- ④ 生徒の活動や努力の跡が可視化できるように、放送や掲示板などの表現の場を積極的に活用する。

(3) 学校行事

- ① 年間通しての一人一人の役割を意識させ、集団への所属感や自己有用感を高める。
- ② 仲間と協力するとともに、学校や社会の一員としての役割や責任を果たす体験を通して、集団行動における望ましい態度や連帯感を育む。

4 具体的施策

(1) 学級活動

- ① 話し合い活動の中で、互いに意見を伝え合い、認め合える場を設定する。
- ② 帰りの会で、生徒による生活・学習評価表の振り返りを活用し、翌日以降の目標設定や実践を促す。また、生徒が主体的に話し合い活動がよりよくできるよう、話し合い活動の手引きを提示する。
- ③ 定期的に学級の様子を振り返る時間を設け、生徒が解決の必要性を実感し、主体的な意志決定が図られるように短期の達成目標について話し合ったりする活動を設定する。

(2) 生徒会活動（生徒活動）

- ① 生徒が主体的に活動できるように、事前指導や事後指導を充実させるとともに、自己評価と他者評価を効果的に活用して自己肯定感を高める。
- ② 「天王地区ふれあい宣言」の趣旨を生かし、行動目標を明確にした生徒活動を計画的に推進するために、日々の活動の様子について可視化するなどの環境を整える。（きずな集会、きずな放送、きずな通りの掲示など）
- ③ 一人一役の仕事を担当することで、集団の一員としての責任を果たそうとする意識を高める。
- ④ 生徒が互いの存在を認め合ったり、気持ちを伝え合ったりすることができる活動を設定する。（「ありがとうの樹」など）

(3) 学校行事

- ① 十分な事前指導や事後の評価を行うことで、生徒が活躍できる機会を充実させたり、活動への達成感・成就感を感得させたりする。
- ② 各行事において、ペナントや賞状等を授与することにより、努力の成果を共有できるようにする。

令和2年度 特別活動全体計画



各学年の指導の重点		
<p>第1学年</p> <p>望ましい集団活動を通して、集団生活のきまりを守りながら、互いのよさを認め合い、集団として向上しようとする態度を育てる。</p>	<p>第2学年</p> <p>望ましい集団活動を通して、自らの夢や目標のために、新たな取組に挑戦したり、何事にも一生懸命取り組んだりして自らを磨こうとする態度を育てる。</p>	<p>第3学年</p> <p>集団活動を通して、互いの向上のために協力し合い、自らの進路実現のために、粘り強く学習に取り組み、進路選択に主体的に取り組む態度を育てる。</p>

	学級活動	生徒会活動	学校行事																		
活動の内容	<ol style="list-style-type: none"> 学級や学校の生活づくりへの参画 ア、イ、ウ 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ア、イ、ウ、エ、オ 一人一人のキャリア形成と自己実現 ア、イ、ウ <p>○第1学年の重点 (1)ア、イ (2)ア、エ (3)ア</p> <p>○第2学年の重点 (1)ア、ウ (2)ア、エ (3)イ</p> <p>○第3学年の重点 (1)ア、ウ (2)ア、ウ (3)ウ</p>	<p>○全校生徒による生徒活動の充実</p> <p>(1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営 生徒総会、あいさつ運動、きずな通り、きずな集会、きずな放送、生活・学習強調週間、生徒会・部活動オリエンテーション、3年生を送る会等</p> <p>(2) 学校行事への協力 体育祭、天中祭等の企画・運営</p> <p>(3) ボランティア活動などの社会参画 潟上市と連携したチャレンジカードの活用</p>	<ol style="list-style-type: none"> 儀式的行事 新任式、始業式、入学式、終業式、卒業式、修了式 文化的行事 天中祭 健康安全・体育的行事 集会指導、交通安全教室、身体計測、避難訓練、体育祭 旅行・集団宿泊的行事 修学旅行、宿泊研修 勤労生産・奉仕的行事 大掃除 																		
本校の特色	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的実践力の指導の充実 人間関係づくりをねらいとする社会的スキル教育等の取組 全教科等における話し合い活動の充実 コミュニケーション活動の充実 学級と生徒会行事とを関連付けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒活動の充実を図り、自主的、主体的な生徒の育成を目指す。 生活・学習強調週間等の実践により、生活のリズムを維持し、学力の向上を図る。 全校の活動が見える表現や掲示の場(きずな通り)を設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの学校行事のねらいや目指す生徒像を明確にし、事前指導を充実させ生徒の育成を図る。 原稿を持たないで全校集会等で発表する。 学校行事での成果をベナントや賞状等で示し、表彰する。 																		
時間・組織	<table border="1"> <tr> <th></th> <th>内容(1)</th> <th>内容(2)(3)</th> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>8時間</td> <td>27時間</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>6時間</td> <td>29時間</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>6時間</td> <td>29時間</td> </tr> </table> <p>※自律的、自発的、主体的な活動の重視</p>		内容(1)	内容(2)(3)	1年	8時間	27時間	2年	6時間	29時間	3年	6時間	29時間	<p>※生徒総会は年2回、専門委員会は月1回実施する。</p> <p>※学校行事と生徒会行事を連動させ、生徒の活動を充実させて、思いやりの心や、学び合うことで互いを高め合う生徒を育成する。</p> <p>※生徒活動の内容を学年・学級で取り組み、全校共通の取組にすることにより、一体感、連帯感を醸成する。</p> <p>※学年委員会の活動を充実させる。</p>	<table border="1"> <tr> <td>1年</td> <td>48時間</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>40時間</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>45時間</td> </tr> </table> <p>※1年職場訪問、2年キャリア・スタート・ウィークは総合的な学習の時間の扱いとする。</p>	1年	48時間	2年	40時間	3年	45時間
	内容(1)	内容(2)(3)																			
1年	8時間	27時間																			
2年	6時間	29時間																			
3年	6時間	29時間																			
1年	48時間																				
2年	40時間																				
3年	45時間																				
評価と改善	<p>学習指導要領(H29年告示)に示される、育成を目指す資質・能力の三つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」で再整理された目標に準拠した評価を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前から事後の活動までの指導を通し、生徒の変容を図る手立てを講じる。話し合いによる決定や自己決定の内容の実践と課題を自己評価や相互評価、教師による観察等の評価により、よりよい実践につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校共通のキャンペーン等の結果をきずな通りに掲示し、きずな放送で情報を提供することにより、全校の視野に立って学校生活を振り返り、次の見通しと改善を図る。 評価結果を分析し、次の活動に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 事後の感想文や学校行事での活動を評価し、成果と課題を明確にする。 担当者が、教師を対象にして、学校行事のアンケートを実施して結果を分析し、全職員で情報を共有して次の取組に生かす。 																		
<p>学期末、年度末の学校評価、12月に実施する保護者対象のアンケート調査で評価結果を分析し、指導内容の修正や次年度の取組に生かす。</p>																					